

通い農業支援システムで技術向上！

「通い農業支援システム」は、安価で簡便にハウス内の栽培環境情報を複数の生産者同士でスマートフォンを使って共有できるシステムです(図)。現在、営農再開地域における新規生産者の技術向上を目的として、新規生産者と熟練生産者の情報共有のための試験を実施しています。2021年度は花き「ストック」栽培の新規生産者が、「通い農業支援システム」から定期的に通知される情報を共有した熟練生産者等からアドバイスを受け、品質の良い切り花を生産することができました。



図 通い農業支援システムの概要(安価かつ簡便にハウスの遠隔監視に使えるIoT機器「通い農業支援システム」製作マニュアル((国研)農研機構)より引用)

【浜地域農業再生研究センター
0244-26-9562】

農業総合 センターたより

コラム

県内の有機農業の今

県は、2004年度からふくしま型有機農業を推進し、2006年度に登録認証機関(福島県)として有機JAS認証を開始しました。2010年度には、有機JAS認証面積が280ha(102人)まで拡大しました。

しかし、2011年3月の原発事故以降、作付け困難地域の発生、風評による販売減少、高齢化などから生産者は減少し、2020年度は180ha(60人)となっています。

減少する有機農業者を下支えするため、2017年度から有機JAS認証の取得を始め、生産体制や販路の拡大を支援する「環境にやさしい農業拡大推進事業」に取り組んできました。

さらに、2021年度からは次世代を担う有機農業者の確保・育成を目的とした「ふくしま有機農業ひとづくり強化支援事業」を実施し、新規有機農業者の受け入れ組織の体制強化、仕組み作りの支援も行っています。

近年、有機JAS認証の新規取得者は増加傾向にあり、有機JAS認証面積も下げ止まり傾向にあります。

また、農業者自ら新たな有機農業の担い手を育成する動きが出始めており、2021年度には3事業者が計5名の研修を受け入れるなど、明るい兆しが見えています。

【有機農業推進室 024-958-1711】

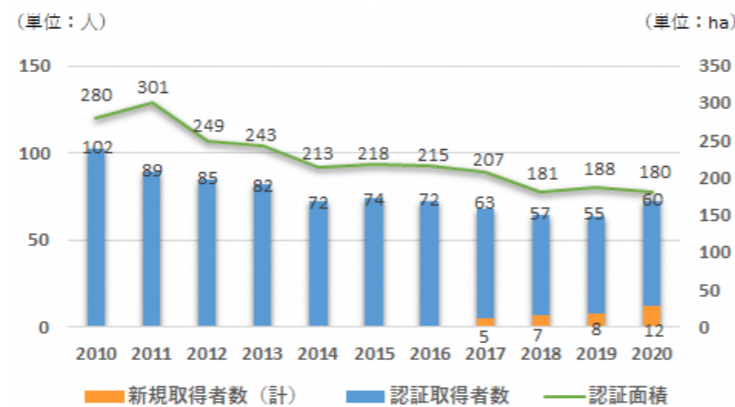


図 福島県内有機JAS認証の推移

掲載して欲しい記事、日頃知りたいと思っている技術などの希望がありましたら、企画技術科までお寄せください。御希望は電話、FAX、メール、郵送いずれの方法でも受け付けます。
(次回は2023年6月発行)



福島県農林水産部
公式YouTubeチャンネル

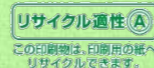


1400の未来を



編集/発行：福島県農業総合センター
〒963-0531 郡山市日和田町高倉字下中道116番地
E-mail:nougyou.jouhou@pref.fukushima.lg.jp

TEL 024-958-1700 FAX:024-958-1726
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a/



先端プロキュウリ栽培風景
(浜地域研究所)

- ・研究紹介 P.2
-大規模雇用経営に向けてキュウリの「摘心栽培」と「つる下ろし栽培」を比較しました-
- ・成果紹介 P.2
-リモコン式草刈機を使って獣害対策用電気柵下の草刈りが容易にできるか検証しました-
- ・成果紹介 P.3
-タマネギ秋まき直播栽培での雑草防除-
- ・成果紹介 P.3
-乗用草刈機による落葉処理はナンシ黒星病の発病を抑制する!!-
- ・研究紹介 P.4
-通い農業支援システムで技術向上!-
- ・コラム P.4
-県内の有機農業の今-
- ・お知らせ P.4

研究紹介

大規模雇用経営に向けてキュウリの「摘心栽培」と「つる下ろし栽培」を比較しました

浜通り地域の農業は、大規模経営にシフトしており、雇用による労働力の確保が課題となっています。キュウリ栽培では、主な管理方法として「摘心栽培」と「つる下ろし栽培」があり、「摘心栽培」は、気候・時期に応じた管理が必要なため栽培に不慣れな方には管理が困難です。一方、「つる下ろし栽培」は、管理が容易であり初めての方でも作業を習得しやすい栽培法です。2021年度に実施した試験結果では、5月に定植した「つる下ろし栽培」の可販果収量は「摘心栽培」と比較して8割程度となりましたが、可販果率は「つる下ろし栽培」の方が高い結果となったことから、無駄な作業が減り、効率的な経営が期待できます。

<耕種概要>

品種：穂木「クラージュII」、台木「ぞっこん」

- 摘心栽培
 - ・主枝を18節前後で摘心し、側枝は3本程度を適宜残しながら、1～2節前後で摘心した。
 - ・定植位置から両側20cmに誘引紐を張り、側枝を振り分けた。
- つる下ろし栽培
 - ・主枝を15節前後で摘心し、定めた側枝4本を収穫枝とした。
 - ・定植位置から両側35cmに誘引紐をぶら下げ、左右2本ずつ側枝を分けた。

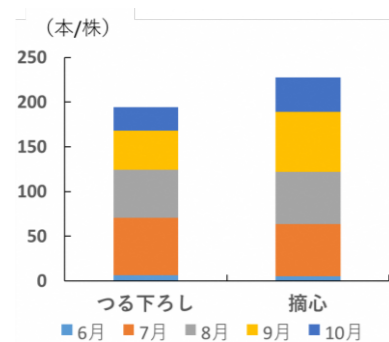


図1 可販果本数
【浜地域研究所 0244-35-2633】

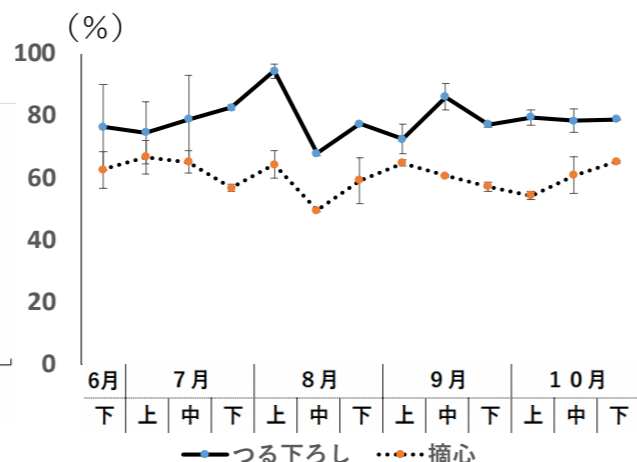


図2 各期間内の可販果率の推移

成果紹介

リモコン式草刈機を使って獣害対策用電気柵下の草刈りが容易にできるか検証しました



成果詳細はこちら

イノシシなどの獣害対策用電気柵は、雑草が電線に触れると漏電し効果が低下するため、柵下のこまめな草刈りが必要です。しかし、電線や支柱が邪魔となり草刈りがしづらいという難点があります。

そこで、市販の電動リモコン作業機（(株)ササキコーポレーション製 s m a m o [スマモ]）に際刈アタッチを付けて容易に草刈りができるか試験を行いました（図1、図2）。その結果、電線を切断したり、支柱を傷つけたりすることなく、容易に草刈りができました。操作に慣れれば、電線や支柱を気にせず草を刈れます。

なお、s m a m o は別売りの草刈アタッチや畦草刈アタッチ等のアタッチメントに付け替えれば、通常の法面の草刈りなど、さまざまな作業が可能です。

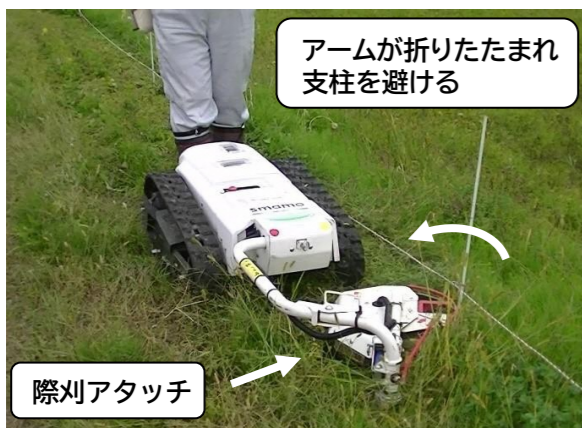


図1 草刈りの様子



図2 草刈り前後の様子

【経営・農作業科 024-958-1714】

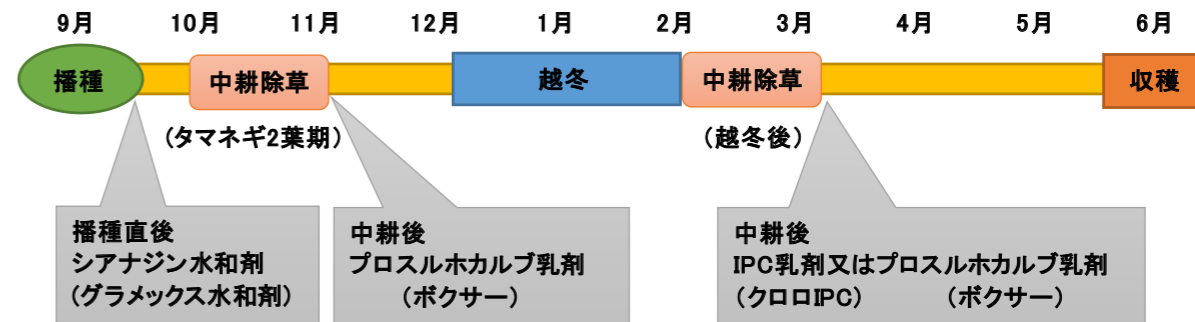
成果紹介

タマネギ秋まき直播栽培での雑草防除

タマネギ秋まき直播栽培は、育苗作業が不要であるため、一般的に行われている移植栽培より省力的でコストも抑えることができます。播種適期は9月頃ですが、まだ気温が高く雑草が発生しやすい時期であるため、収量を確保するためには適切な雑草防除が重要です。

そこで、農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の中で試験研究を行い、秋まき直播栽培に適した雑草の防除体系を構築しました。

秋まき直播栽培では、播種直後に使用できるシアナジン水和剤（グラメックス水和剤）、越冬前と翌春の中耕後に使用できるプロスルホカルブ乳剤（ボクサー）、IPC乳剤（クロロIPC）を組み合わせて防除することで、移植栽培と同程度の収量が確保できます。



※プロスルホカルブ乳剤は中耕後（雑草発生前）、ただし収穫45日前までに使用してください。
 ※IPC乳剤は中耕後、ただし収穫30日前までに使用してください。
 ※農業は2022年8月時点で登録されているものです。農業使用時には、ラベルを見て、倍率、収穫前日数等をよく確認してください。

図 タマネギ秋まき直播栽培における雑草防除体系

【野菜科 024-958-1724】



成果詳細はこちら

成果紹介

乗用草刈機による落葉処理はナシ黒星病の発病を抑制する！！



成果詳細はこちら 成果動画

本年7月下旬の病害虫防除所の調査結果によると、ナシ黒星病の県内での発生は場割合は、平年並～平年より高い状況であり、翌年に向けた防除対策が重要です。黒星病の病原菌は秋型病斑の発病葉で越冬し、翌年の春に落葉から子のう胞子を飛散させ、葉や果実に感染します。

対策として、乗用草刈機を用い落葉を粉砕することで、子のう胞子の飛散抑制効果があり、翌春の黒星病の果そう葉や新梢葉での発病を抑制できます。

【試験結果の概要】

- 落葉後の2020年11月20日及び12月1日に乗用草刈機を用いて、刈り高3cm、各回約60分/10aの設定では場を縦横に複数回走行し、落葉の粉砕処理を実施しました（図）。
- 処理翌年の3月時点で粉砕処理区の落葉の残存率は、無処理区の約3%に減少しました。
- 粉砕処理後の落葉の残存率が低いほど翌年の子のう胞子の飛散量が少ないため、原形をとどめた落葉が残らないよう粉砕することが重要です。

なお、病原菌は秋にりん片にも感染し、翌年に芽基部病斑となるため、秋期防除を併せて徹底しましょう！（秋期防除については、令和元年度普及に移しうる成果を御参照ください）



図 粉砕処理後の状態（左：無処理、中：拡大、右：処理後）

【果樹研究所 024-542-4191】